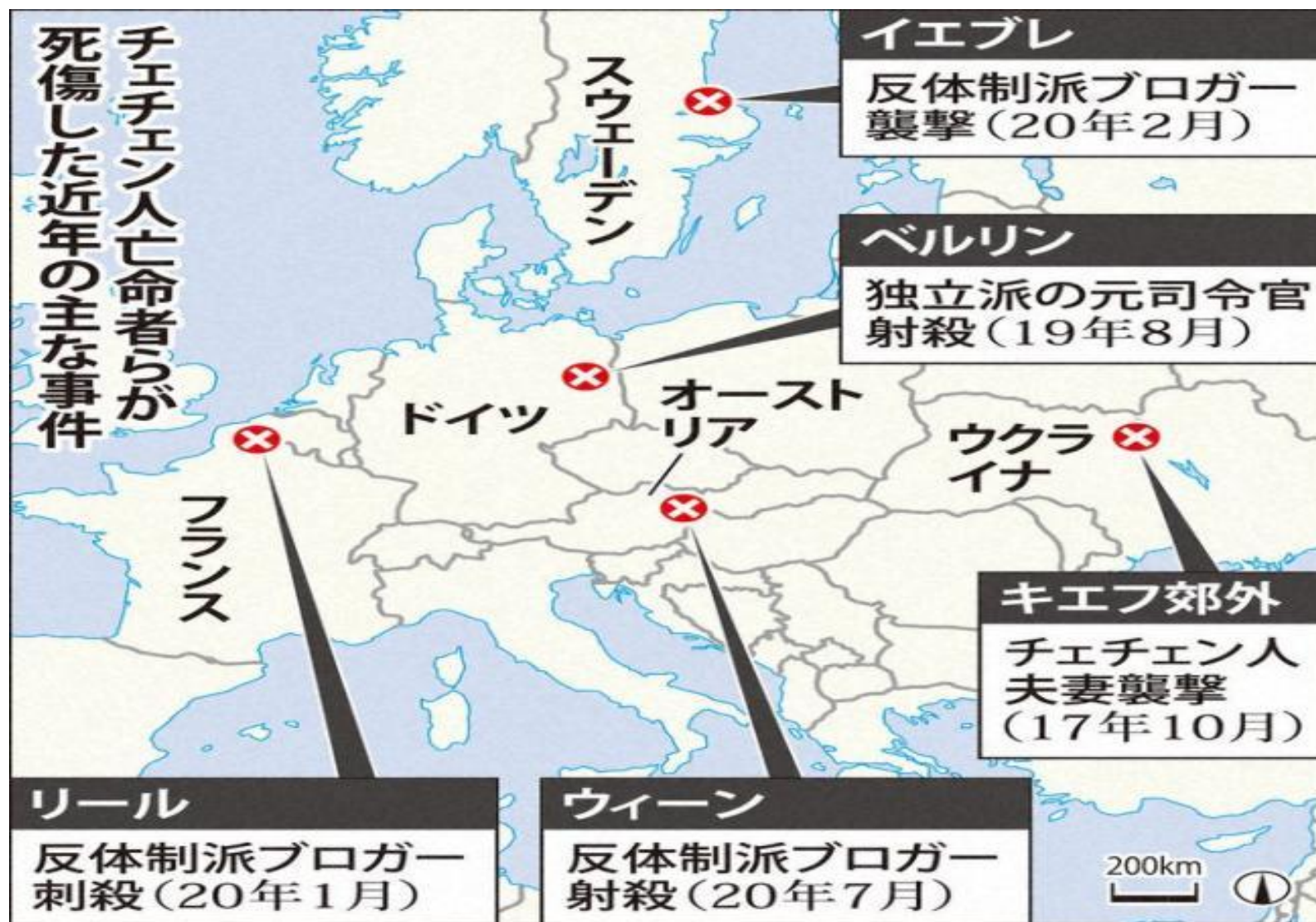
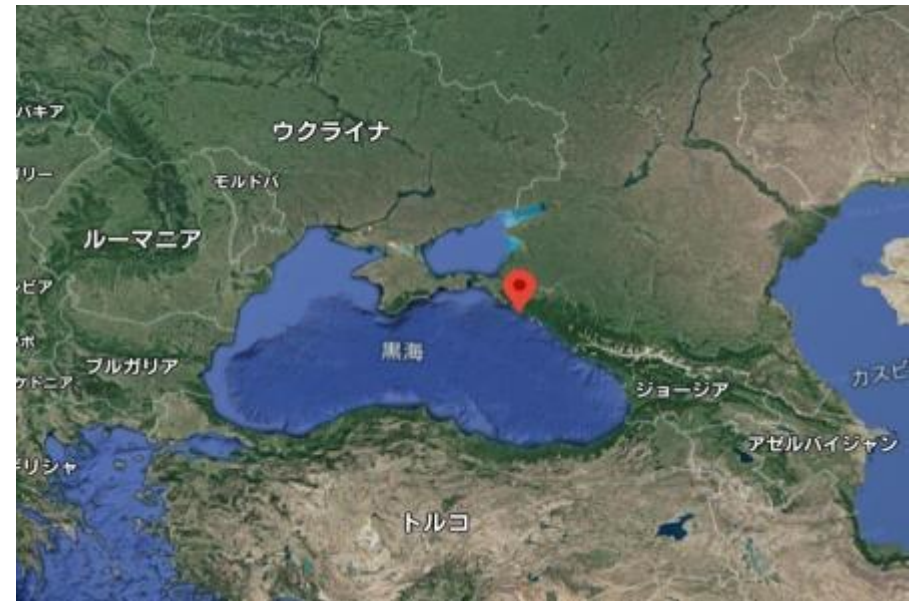
◇◇プーチン

2022年に死亡が報じられたオリガルヒなど

・1/29　投資会社ガスプロム・インベスト幹部のレオニド・シュルマン氏（浴室で遺体で発見）
・2/25　国営ガス会社ガスプロム幹部のアレクサンドル・チュリャコフ氏（自宅ガレージで遺体で発見）
・2月　極東・北極圏開発公社のイーゴリ・ノソフ社長（当時）急死
・3/23　医薬品会社メドストムの元幹部ワシーリー・メルニコフ氏（自宅で妻・子ども2人と遺体で発見）
・4/18　大手銀行ガスプロムバンク元副社長ウラジスラフ・アバエフ氏（銃を握った状態で妻・娘も遺体で発見。無理心中か）
・4/19　天然ガス大手ノバテク元副会長セルゲイ・プロトセーニャ氏（スペインのリゾート地で首つり。妻・娘も遺体で発見。無理心中か）
・5/1　レストランチェーン「カラバエフ兄弟の料理店」共同創業者、ウラジーミル・リャキシェフ氏（自宅で銃で撃たれ死亡。拳銃自殺か。妻が発見）
・5/8　石油会社ルクオイルの元トップ・マネジャー、アレクサンドル・スボチン氏（霊媒師宅の地下室で遺体で発見。急性心不全）
・9/1　石油大手ルクオイルのラヴィル・マガノフ会長がモスクワ市内の病院　の窓から転落死
・9/12　極東・北極圏開発公社・航空部門幹部のイバン・ペチョーリン氏が、 ウラジオストクの近海で、10日高速のボートから転落し、その後、遺体で発見
・9/21　モスクワ航空研究所（MAI）の元所長のアナトリー・ゲラシチェンコ氏が事故で死亡

チェチェン人亡命者の暗殺事件

DW

Is this “Putin’s Palace”?

「富と贅沢にとりつかれた」1400億円“プーチン宮殿”の全貌が動画告発された！《再生回数1億回以上》

- ロシアの反政府勢力を代表する人物で、ロシアの治安機関によって毒殺されかけたアレクセイ・ナヴァーリヌイ（ナワリヌイの表記は使わない）は2021年1月17日、治療を終えたドイツからロシアに帰国した。その直後、執行猶予中の条件に違反したとして拘束されたが、19日になって、「プーチンのための宮殿：もっとも大規模な賄賂の歴史」というビデオがユーチューブにアップロードされた。彼自身が登場する約1時間53分におよぶ告発のなかで、プーチンがいかに腐敗しているかを語っている。すでに視聴回数は1月30日時点で、1億回を超えている。

- このビデオがきっかけとなって、1月23日には、ロシアの100を超す都市で、ナヴァーリヌイの釈放を求めるデモが行われた。デモ参加者中、全国で3770人、うちモスクワで1481人が拘束されたとの情報がある。人々は、「プーチン、泥棒」（Путин, вор!）と叫び、多くの若者がプーチンへの怒りをあらわにした。社会人類学者がモスクワでのデモ参加者359人を無作為にサンプル調査したところ、42%が今回初めてデモに参加したことがわかったという（2021年1月24日付の「ニューヨーク・タイムズ電子版」を参照）。同チームが2019年のモスクワでの抗議行動を調査した際には、17%だったから、今回、若者中心に「プーチンが泥棒である」との認識がにわかに広まり、抗議行動となって表面化したと推測される。

文春オンライン　2021.2.2　小坂諒

2/21のプーチン「国民へのビデオメッセージ（約1時間）」要旨

- 【ウクライナ】ウクライナは単なる隣国ではない。我々自身の歴史、文化、精神的空間の切り離しがたい一部なのだ。現代のウクライナは完全にロシア、正確には共産主義のロシアによってつくられた。レーニンや同志たちがロシアの歴史的領土を切り離すという方法でつくった。

- 【米欧との関係】（米国は）なぜ我々を敵にしようとするのか。答えはただ1つ、問題は我々の政治体制にあるのではなく、他のことにあるのでもない。単にロシアのような大きな独立した国家が必要ないからだ。

- 【ウクライナのNATO加盟】ウクライナのNATO加盟とそれに続くNATOの施設の展開はすでに決まったことだと考えるあらゆる根拠がある。NATOの文書で我々は公式に、直接的に欧州大西洋の安保の主要な脅威だと宣告された。ウクライナがロシアを攻撃するためのNATOの前線基地になる。

- 【親ロシア派占領地域の独立承認】きょうの決定（独立承認）を宣言し、ロシアの国民、すべての愛国的勢力が支持してくれると確信している。（ウクライナに）直ちに軍事行動をやめるよう要求する。そうでなければ、これから続く可能性がある流血のすべての責任は完全に、ウクライナ領を統治する政治体制の良心が負うことになる。

2/24のプーチン「国民へ向けての演説」抜粋

- 毎年着実に、西側諸国の無責任な政治家たちが我が国に対し、露骨に、無遠慮に作り出している、あの根源的な脅威・・・NATOの東方拡大、その軍備がロシア国境へ接近している
- ソビエト連邦の崩壊後、事実上の世界の再分割が始まり、これまで培われてきた国際法の規範が、冷戦の勝者であると宣言した者たちに邪魔になるようになってきた。
- NATOが軍備をさらに拡大し、ウクライナの領土を軍事的に開発し始めることは、私たちにとって受け入れがたいことだ。それはアメリカの対外政策の道具にすぎない。
- 問題なのは、私たちと隣接する土地に、言っておくが、それは私たちの歴史的領土だ、そこに、私たちに敵対的な「反ロシア」が作られようとしていることだ。それは、完全に外からのコントロール下に置かれ、NATO諸国の軍によって強化され、最新の武器が次々と供給されている。
- ドネツク人民共和国とルガンスク人民共和国との友好および協力に関する条約を履行するため、特別な軍事作戦を実施する決定を下した。
- その目的は、8年間、ウクライナ政府によって虐げられ、ジェノサイドにさらされてきた人々を保護することだ。そしてそのために、私たちはウクライナの非軍事化と非ナチ化を目指していく。
- ただ、私たちの計画にウクライナ領土の占領は入っていない。私たちは誰のことも力で押さえつけるつもりはない。

ロシア人とウクライナ人の歴史的一体性について 2021.7.12 プーチン論文の抜粋1

- 近年、ロシアとウクライナの間に、つまり本質的に、 ひとつの歴史的・精神的空間の部分の間に生じた壁を、大きな共通の不幸・悲劇として理解していることを、 同時に強調しておく。 それは、様々な時期に我々自身が犯した過ちの結果ではある。 しかし、我々の一体性を常に損ねようとしてきた勢力が意図的にもたらした結果でもあった。 適用される公式は、太古の昔から知られている分割統治である。 新しいことは何もない。 それゆえ、民族問題をもてあそび、人々の間に不和の種を蒔くことを試みたのである。 そして、最重要課題としては、一つの民族を分断し、それぞれをけしかけて喧嘩させるのだ。

- ロシア人も、ウクライナ人も、ベラルーシ人も、ヨーロッパ最大の国家であった古ルーシの継承者である。 ラドガ、ノヴゴロド、プスコフからキエフ、チェルニゴフまでの広大な地域のスラヴ族や他の部族は、1つの言語（今は古ロシア語と呼んでいる）、経済的つながり、およびリューリク朝の公の権威によって、そしてルーシのキリスト教化の後は一つの正教によって、統一されていた。 ノヴゴロド公でありキエフ大公でもあった聖ウラジミールの宗教の選択は、現在、多くの点で我々の親族関係を定めた。

ロシア人とウクライナ人の歴史的一体性について
2021.7.12　　　　プーチン論文の抜粋2

- 我々を団結させ、今も結びつけているものすべてが、攻撃を受けている。まず第一に、ロシア語である。「マイダン」新政権が、まず国家言語政策に関する法律を廃止しようとしたことを想起する。そして、「権力の浄化」に関する法律、教育に関する法律が制定され、教育課程からロシア語を事実上排除してしまった。
- その上に、今年の5月、現大統領が「先住民族」に関する法案をラーダに提出した。彼らは少数民族を構成し、ウクライナ国外で独自の国家教育を受けていない人々のみを認めている。法律は可決された。新たな不和の種が蒔かれた。

- ウクライナの代表が、ナチズムの英雄化を非難する国連総会の決議に繰り返し反対票を投じるのは当然だと思う。政権の保護の下で、生き残ったSS部隊の戦争犯罪者を讃える行進や「たいまつ行進」が行われている。・・・ナチスと協力したバンデーラは、国民的英雄の扱いになっている。彼らは、常にウクライナの誇りとされてきた真の愛国者や勝利者の名前を若い世代の記憶から消すために、あらゆることをしているのだ。

「新ユーラシア主義」とは？

アレクサンドル・ドゥーギン

- プーチンの影のメンターともいわれる、アレクサンドル・ドゥーギンの思想の中心にある考え
- かつて社会主義の理念で結ばれた旧ソ連の版図を、統制経済とロシア正教の原理で一元化し、西欧でもないアジアでもない、独自の精神共同体と見なす考え。そこでは国境の概念は希薄。（亀山郁夫による）

「歴史に憑りつかれたプーチン大統領」（パリ東京雑感2022.4.15　松浦茂長）より

- 仏のマクロン大統領は、ウクライナをめぐって、プーチン大統領と電話を含め20時間も話しているが、歴史の長談義を聞かされるのに驚いたそうだ。
- プーチンの頭の中は＜歴史＞でいっぱい、＜現在＞には全く関心がない。側近が経済問題や、コロナ対策について話すと、プーチンは露骨に嫌な顔をしたそうだ。一体どんな＜歴史＞に熱中しているのだろうか。

- 2021年9月にプーチンはロシアのエリート・クラブで演説し、影響を受けた3人の思想家を挙げた。①ニコライ・ベルジャエフ、②レフ・グミリョフ、③イワン・イリーン。

- イリーンには激烈なウクライナ憎悪が見られる。彼は言う、「ロシアの敵たちは、ウクライナに民主主義を偽善的に売り込んで、ロシアの勢力圏から引きずり出そうとする。しかし、本来ウクライナはロシアの一部であり、分離・独立の主張には何の根拠もない。国際的軍事的陰謀が生み出したまがい物だ」。

- ソ連という大帝国は、ほとんど流血もなく解体したが、その後にやってきた弱肉強食のジャングルのような脱共産主義社会はロシア人の心を深く傷つけた。プーチンは、そのトラウマを治癒し、ロシア人に誇りを取り戻させる精神療法士として登場したのである。

イワン・イリイン

ウィキペディアより

- 初め、イリインは、1917年に勃発した二月革命を人民の解放と認識していたが、十月革命によってボリシェビキ政権が確立すると、革命に対する期待は失望へと変わった。第二次モスクワ公人会議において、彼は「革命は、国家による利己的な略奪へと変貌した」と語っている。
- その後、彼はロシア革命をロシア史上最も恐ろしい大惨事、国家全体の崩壊と評するようになる。が、旧体制の支持者たちとは異なり、すぐに国外へ亡命することなく、1918年、モスクワ大学法学教授になり、ヘーゲルに関する学術論文も出版。

- 「結局のところ、何がロシアを革命の悲劇へと導いたのか？」。彼はこれについて、こう結論づけた:「ロシア人の『弱く、傷ついた自尊心』である」。
- 彼にとって、ロシアからウクライナを引き剥がす意見を口にするものは、即ちロシアの仇敵であった。彼はウクライナ独立論について、「細胞が体のどの部分であるか選べるのと同様に、個人も国籍を選ぶことができる」と反論

プーシキンの銅像（サンクトペテルブルク）　1799生～1837没

ウクライナで撤去されたプーシキンの銅像

テルノピリのナダル市長のSNSより　　2022.4.10　朝日新聞デジタル

ウクライナでプーシキン像が撤去された背景

- プーチン政権の汎スラブ主義への傾斜が侵攻のバックボーンになっていることを端的に示すシーンが、侵攻開始後の2022年3月半ばにあった。
- プーチン氏の取り巻き知識人である外交専門家であるニコノフ氏（ソ連外相モロトフの孫）が、ロシアへの西欧の干渉を不当と批判する有名な愛国詩をテレビ上で鬼気迫る表情で朗読したのだ。
- この詩は、国民的詩人であるプーシキンが19世紀初めに発表したもので、当時、ポーランドに攻め込んだロシアをフランスが非難したことに対し、強く感情的に反論する内容だ。

◆プーシキンの愛国詩　「ロシヤを中傷するものたちへ」

なにをかしましく騒ぎたてるのか

きみら 諸国の雄弁家たちよ？

なにゆえ きみら 呪いのことばでロシヤをおびやかすのか？

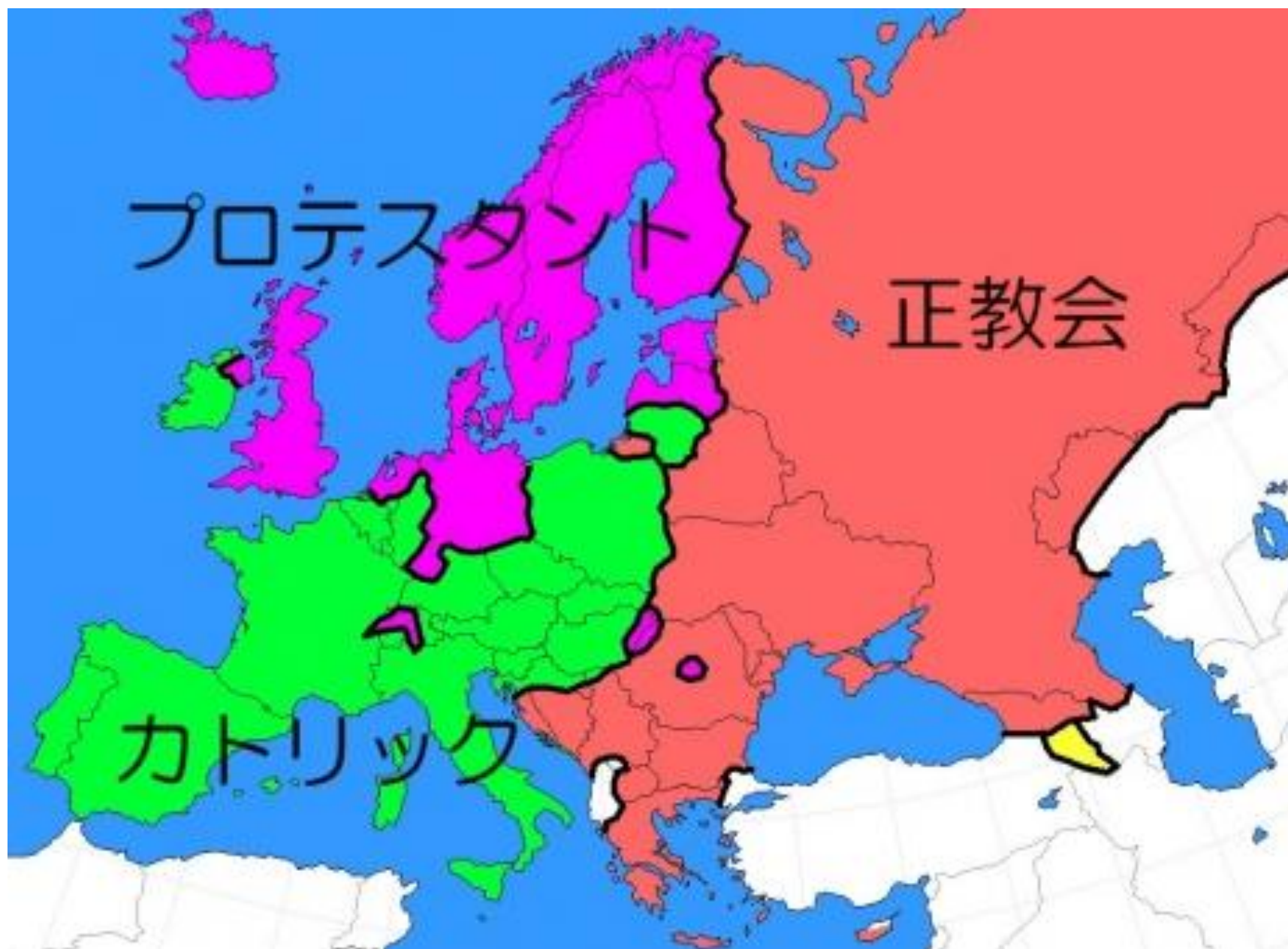
なにが きみらを憤激をさせたのか？　リトワニヤの動乱か？

やめにしてくれ。　これは スラヴ民族同士のあらそい

内輪の 昔からの 運命にさだめられたあらそい

きみらが解決できる問題ではない。

河出書房出版『プーシキン全集1』より、草鹿外吉訳

プロテスタント
正教会
カトリック

ロシアとウクライナの宗教対立の構図
コンスタンチノープル総主教庁
（東方正教会最高権威）
関係断絶
独立容認方針
ロシア正教会
管轄主張
ウクライナ正教会
モスクワ総主教庁系
（融和派）
反発
キエフ総主教庁
（独立派）
連携
支援
ロシア
ウクライナ
プーチン
大統領
ポロシェンコ
大統領
対立
※写真はUPI

17

5/9対独戦勝記念日のプーチン演説　抜粋

- 去年12月、われわれは安全保障条約の締結を提案した。ロシアは西側諸国に対し、誠実な対話を行い、賢明な妥協策を模索し、互いの国益を考慮するよう促した。NATO加盟国は、われわれの話を聞く耳を持たなかった。

- ドンバスでは、さらなる懲罰的な作戦の準備が公然と進められ、クリミアを含むわれわれの歴史的な土地への侵攻が画策されていた。**キエフは核兵器取得の可能性を発表していた**。そして**NATO加盟国は、わが国に隣接する地域の積極的な軍事開発を始めた。このようにして、われわれにとって絶対に受け入れがたい脅威が、計画的に、しかも国境の間近に作り出された**。

- われわれは、祖国への愛、信仰と伝統的価値観、先祖代々の慣習、すべての民族と文化への敬意を決して捨てない。

- 戦死者や負傷者の子どもたちを特別に支援する。その旨についての大統領令が、本日署名された

半世紀前、世界は核戦争を覚悟した

（キューバ危機を巡る主な出来事）

1962年	
10月14日	米偵察機、キューバにソ連のミサイル基地を発見
22日	ケネディ米大統領、キューバの海上封鎖を発表
27日	キューバで米偵察機が撃墜される
28日	ソ連が「キューバからの武器撤去」を発表

ソ連時代のワルシャワ条約機構とNATO

NATOの東方拡大

ウクライナ問題とNATOの東方拡大

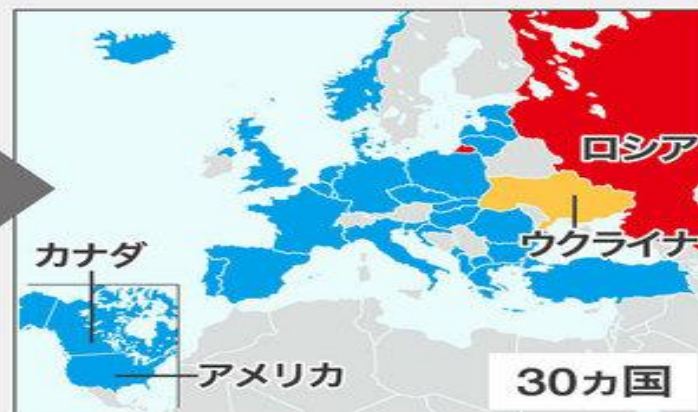
NATO

「北大西洋条約機構」
米国や西欧諸国を中心とした軍事同盟
冷戦後は**旧ソ連含む東欧諸国も次々加盟**

ソ連崩壊前の加盟国

カナダ
アメリカ
16カ国

1999年以降の加盟国

ロシア
ウクライナ
カナダ
アメリカ
30カ国

ウクライナ
NATOへの加盟を希望

アメリカ
ウクライナの主権を尊重

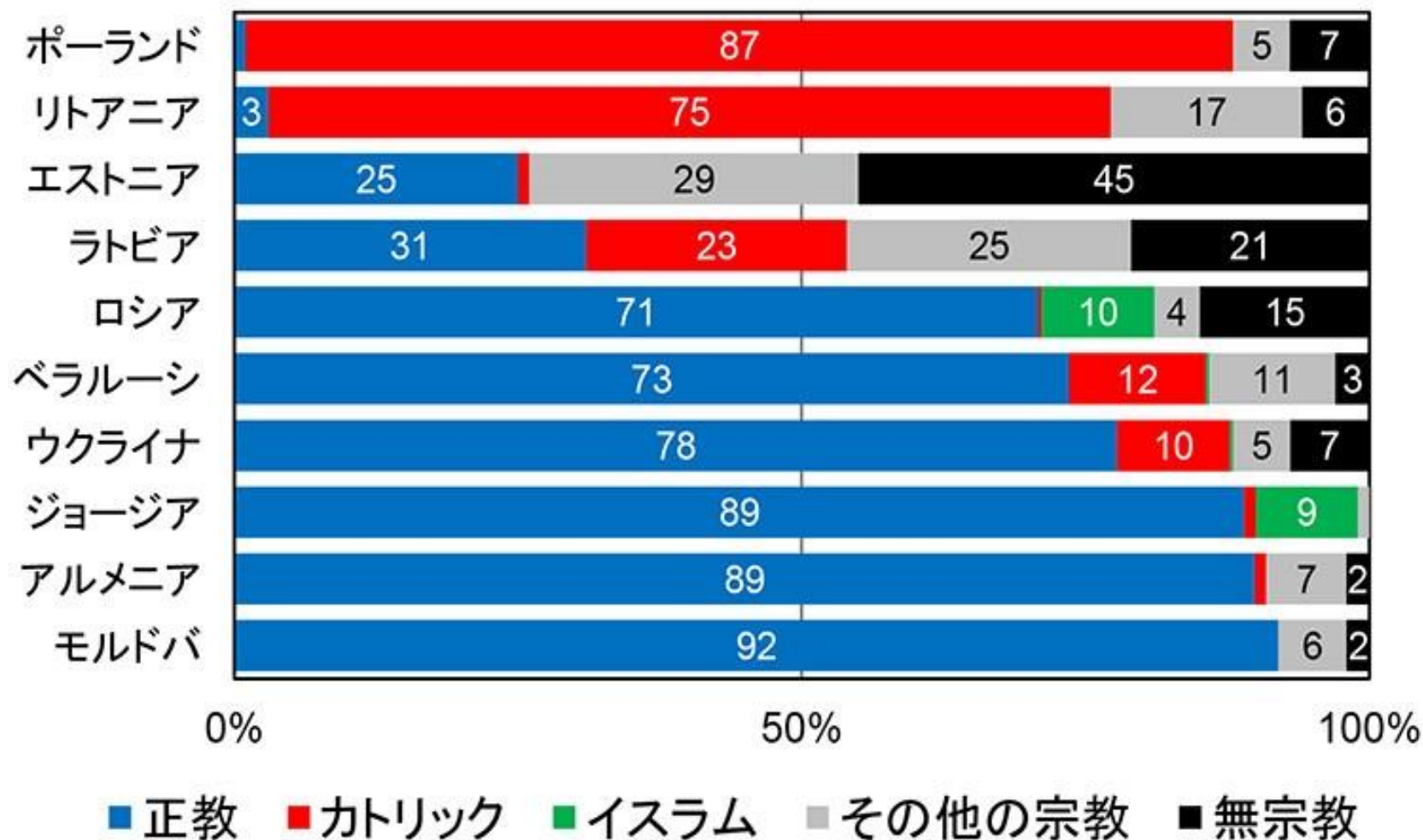
対立

ロシア
NATO「不拡大」の確約を要求

時事通信の記事を基にYahoo!ニュース制作
写真：ロイター/アフロ、Ukrainian Presidential Press Service/ロイター/アフロ、代表撮影/ロイター/アフロ

ウラジーミル大公像（高さ17m）除幕式

プーチン大統領とキリール総主教が祝辞　　　2016.11.4

（参考）キリル総主教（ロシア正教会のトップ）

（出所）Pew Research Centerによる2015～2016年の調査結果。

原初年代記

12世紀に編さんされた

『原初年代記』

という歴史書の伝説によると、東スラブ人のポリャーネ氏族の3兄弟、キー、シチェク、ホリフとその妹が町をつくって、一番上の兄の名を取ってキーウ（キエフ）と名付けたそうです。これが今のウクライナの首都にもなっているキーウの始まりだとされています。

NHK
キエフ・ルーシ
(9世紀末~13世紀)
※図は11世紀ごろ
ロシア
モスクワ
ベラルーシ
キーウ
ウクライナ

プーチンが、ウクライナを批判する時、「反ファシズム」を持ち出してくる理由

- 欧米では反ファシズム＝ヒューマニズムであり、ヒューマニズム＝リベラル・デモクラシーであるという図式が共有されているがゆえに、リベラル・デモクラシーの一極支配に対抗すると称するロシアの戦争が「反ファシズム」のスローガンを掲げることは、欧米の目には意味不明にしか見えない。
- しかし、ロシアにとっては「反ファシズム」は社会統合を可能にする唯一無二の物語であり、また、自己を欧米と異なるものとして表出するための記号であり、それが選ばれなければならないところにロシアの未来展望の不在が表れている。

（白井聡『未来なき社会はおぞましい夢を見る』より

現代思想6月臨時増刊号所収）

「投影」と呼ばれるロシアの病的症状

- ウクライナ戦争の開始に至る過程で、政府やマスメディアは、ウクライナ東部のロシア系住民がウクライナ側による「ジェノサイド」の被害を被っていると繰り返し訴えはじめた。スターリン時代のジェノサイドの加害責任を問われたことに対して、相手に同じ言葉を返すという鏡像的身振りは、戦争でウクライナ人の犠牲者がではじめると、政治家やメディアだけでなく、多くのロシア市民にも見られるようになり、ロシア軍の残虐行為はすべてウクライナ側の仕業だという反転世界が彼らの間に出現した。
- 精神分析の用語で「投影」と呼ばれるこうした病的身振りは、「記憶の戦争」の過程で加害者の立場に立たされ、被害国が次々とNATOに加盟し、追いつめられたと感じたことから生じた防衛機制であろう。

（『埋葬されない帝国の記念碑――ウクライナ戦争と境界の消失』 より
平松潤奈著、現代思想6月臨時増刊号所収）

（参考）ユーラシア経済連合創設（2015.1.1） ～ 挫折

- 旧ソ連諸国が、経済統合や集団安全保障など、積極的な協力関係を築いていくために、様々な再統合の提案がなされてきたが、利害も国情も異なる国々をまとめるのは容易でなく、実を挙げたものはほとんどなし。
- そうした中で、経済規模が相対的に大きく、発展水準も比較的高く、統合にも前向きなロシア・ベラルーシ・カザフスタンの3国が先行する形で、より踏み込んだ経済統合を推進。結果成立したのが、2007年の関税同盟条約。3国関税同盟は2011年7月に全面的に始動し、域内では税関手続きが廃止。3国間では貨物がフリーパスで国境を通過できるようになり、「旧ソ連空間で初めて、経済統合が成果を挙げた」と高く評価。
- これに気を良くし、プーチンはさらに野心的な構想を掲げた。プーチンは2011年10月4日付の『イズベスチヤ』紙に「ユーラシアにとっての新たな統合プロジェクト —今日生まれる未来」と題する論文を寄稿。
- プーチン主導のユーラシア統合と、EUの東方パートナーシップがせめぎ合うこととなるが、ウクライナは、EU を選択。プーチン・プランは挫折

ユーラシア経済連合の加盟諸国

「ユーラシア経済連合」関連国の基礎データ
※ウクライナは参考に加えてある

	人口	GDP（億ドル）	一人当たりGDP
ロシア	**1億4,700万**	12,807	12,194
ベラルーシ	**930万**	682	7,300
カザフスタン	**1,900万**	1,712	9,071
キルギス	**670万**	85	1,283
アルメニア	**300万**	126	4,267
ウクライナ	***4,160万***	*1,555*	*3,726*

国連人口基金・IMF、2020～2021統計データより

ベラルーシ･ロシア連合国家

- 1999.12.8ロシアのエリツィン大統領とベラルーシのルカシェンコ大統領との間で「ベラルーシ･ロシア連合国家創設条約」が調印された。当時、ロシアは国力が低下しており、イニシアチブはベラルーシ側が握っていた。そして、2000.1.26の条約発効に伴い、ルカシェンコが連合国家の最高指導者となるはずだった。
- ところが、エリツィンの後継大統領となったプーチンが、ベラルーシのロシアへの吸収合併を示唆する発言を繰り返すようになり、この構想にルカシェンコが反発し、連合国家は機能せず、棚あげになった。
- その後、進展していない。

ウィキペディアより

ロシア兵の命の値段は、500万ルーブル（690万円）。行方不明の場合は無し

ロシア人の平均年収61万　　2022.4.3

- ロシアでは、春と秋の二度に分けて、18歳から27歳までの男子を徴兵する。兵役期間は1年で、大学に在籍する者は徴兵が免除されるが、大学での軍事教練が必修となってくる。今年も7月15日までに例年並みの13万4500人を徴集することを目標とする。
- 今回の「特別軍事作戦」で死亡した兵士の家族には500万ルーブル（約690万円）が一時金として支払われることになっている。保険金、補償金としては家族に742万ルーブル（約1023万円）が支払われる。合計で1242万ルーブル（約1713万円）である。国防省が保険をかけている。また負傷の程度に応じて保険も支払われることになっている。しかし国防省に資金はないので、多くの人は「行方不明」とされ「死亡」したかどうかわからないままになってしまう。戦死者も負傷兵も戦場に残されたまま、「行方不明」とされて終わりである。
- ロシアでは兵士を単なる消耗品と考えているようである。
  ロシアでは、貧しい地方では兵士になる以外、収入の道がないことが多い。貧しさゆえに教育も十分ではなく、読み書きのできない者も多い。軍隊に入るとまず読み書きの教育から始まるということである。上官達はそういう貧しい地方出身の彼らを物扱いし、兵士の命より軍の装備を重視し、遺体ばかりか負傷兵も置き去りにしているという。自国の兵士の扱いですらこの通りである。

「兵士の母の会」ワレンチナ・メリニコワ会長のインタビュー記事より

スターリン礼賛復活

- 欧米や日本のスターリン像はロシアでは全く正反対だ。高いスターリン評価と大国ロシア復活を目指すプーチン大統領への支持の背景をロシア文学の第一人者、沼野充義氏に聞いた。
- 　――　プーチン政権下の20年間、過去の独裁者スターリンを評価する動きが広がっている。
- （沼野）　ロシアの非国営独立系会社がロシア人に対して「人類の歴史上で一番偉いと思う人は誰か」という世論調査をしている。
- 直近21年５月実施で、１位がスターリンの39%、２位レーニン30%、３位プーシキン23%、４位ピョートル大帝19%、5位プーチン15%だ。

スターリンに肯定的評価、過去最高　2019.4.7　産経新聞

- ソ連時代の独裁者で、政敵や民衆ら少なくとも数十万人を銃殺したとされるスターリン元ソ連共産党書記長（１８７８～１９５３年）について、肯定的な感情を抱くロシア人の割合が５０％を超えたことが、ロシアの独立系世論調査機関「レバダ・センター」の定期調査で分かった。スターリンへの肯定的評価が５０％を超えるのは、２００１年の調査開始以来初めて。
- ロシアの国際的影響力の低下や経済低迷、不十分な社会保障、格差拡大など現状への不満が、ソ連時代の大国イメージや安定性への憧憬となって回答に反映されたとみられる。
- 調査は３月２１～２７日、１８歳以上の約１６００人を対象に実施され、今月１６日に結果が公表された。「スターリンにどんな感情を抱くか」との問いに、４％が「称賛」、４１％が「尊敬」、６％が「好意的」とし、肯定的な回答が過半数を占めた。「反感」は６％で、過去最低となった。

2011.7.15　ロシア中部ペンザで、スターリンの胸像の除幕を行う参加者（ロイター＝共同）

「エリートと大衆」の隔絶

- ロシアのインテリがよく口にする「大衆（толпа）」には、無限の軽侮が込められている。それに対して大衆の方は、エリートを自分たちの富（大地も石油も、何でも自分たちのものだと思っている）に寄生する無為徒食の徒とみなす。
- **ソ連時代、ヨシフ・スターリンは、こうした大衆に迎合し、医師や教師など知的職業の給料を労働者より低めに設定した。**
- 今でもエリートと一般大衆は互いに、「奴らさえいなければロシアはもっといい国になるのに」と本気で思っている。

「第三章　歴史のトラウマ――栄光と悲惨」より

『ロシアの興亡』（河東哲夫著、MdN新書、2022.6）所収

ピョートル大帝像全景（1997年建設．98m。左はウスペンスキー大聖堂）
モスクワ850周年・ロシア海軍300周年記念

ピョートル大帝像（初代ロシア皇帝。プーチンは執務室に肖像画を）

（参考）バルセロナのコロンブス像（塔の高さ60m、像は7m）

ウラジーミル大公像（2016年、高さ17m。　靖国神社大鳥居は25m）

（蛇足） カラシニコフの銅像　（2017.9.19除幕）

（蛇足） イワン大公＝イワン4世（イワン雷帝）　　初代ツァーリ

（蛇足） ウラジーミル（ Владимир ）の意味など

俗説では「世界征服せよ」

「平穏を巧みに保つ者」あたりが穏当

владе́ть（所有する、うまく切り回す）

＋**мир**＝世界、平和、（農村）共同体

- （cf）**Владивосток**（ウラジオストック）

Влади（所有せよ）＋ **восток**（東）

◆イワン雷帝（ Иван **Грозный**）と チェチェン

チェチェン共和国の首都（グロズヌイ） **Грозный**

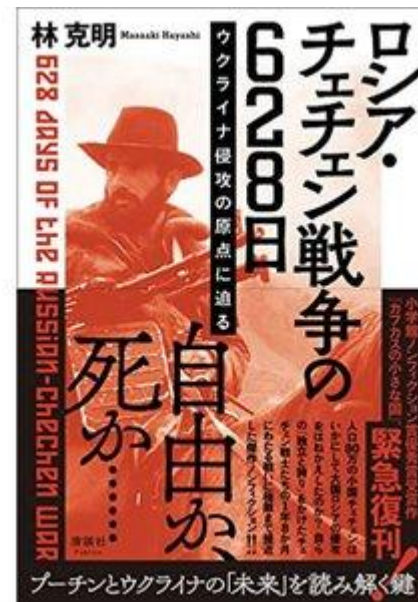
Грозный ＝ 恐ろしい

ロシアにとっての戦争は「イデオロギー的な実践」
戦争はロシア正教会で肯定された「神聖な行為」

- ロシアにとって戦争とは、単なる防衛でもなく、単なる侵略でもない。それは巨大な「**祝祭**」であり、国民によって何度も追体験されるべき歴史的記念碑であり、イデオロギー的な実践なのである。「祝祭」というのは、戦争によって数多くの命や莫大な富が蕩尽されるからである。
- そして、戦争による犠牲は単なる悲劇として記憶されるのではなく、祖国ロシアを防衛したという記念すべき、そして祝うべき栄光として記憶されるからである。
- 守られるべきロシアとは、イリインの思想で明確に述べられているような「神において見られるロシア」、すなわち「聖なるロシア」でもある。
- ロシア正教もまたロシアに固有の、ロシアのための宗教、つまり「**護国宗教**」だということだ。キリスト教という普遍宗教でありながら、“ロシア”の地に根付いたナショナルな護国宗教を本質としている

2022.9.12　東洋経済ONLINE　　亀山陽司

プーチンの政治手法

- 対外的には戦争を仕掛け、国内の敵に対しては暗殺を常套手段としている。
- 林克明氏の著書が詳しい

KGB創設者（ジェルジンスキー）像の再建案に波紋

下の写真は、モスクワの公園に移されているジェルジンスキー像

2021年1～2月のロシアの動き

- モスクワの中心部に、ソ連国家保安委員会（KGB）の前身である秘密警察を創設したジェルジンスキーの銅像を再建するかを問うオンライン住民投票が2月下旬に実施された。しかし賛否が拮抗し、投票は途中で中止された。

- ロシアでは1月、反体制派指導者逮捕をきっかけに大規模な反政権デモが起こったばかり。露メディアは、今回の投票の背景に、市民の注意を抗議活動からそらせる狙いがあったと指摘する。

2021.3.29　エコノミストOnline　前谷宏

ベラルーシ・ミンスクにある ジェルジンスキー像

フェリックス・ジェルジンスキー

ポーランド貴族生まれ、革命家
「秘密警察の父」

国家政治保安部（GPU）創設。

GPUは、スターリン死後KGBに改称。

死後は神格化され、ポーランドやソ連に、彼の名を関する地名や工場等が沢山出来た。

ベラルーシには、ポーランド国境近くに「ジェルジンスク」市がある。